

平成24年度

# 第10回 全国環境連全国大会

守ろう水資源  
つなげよう未来へ  
災害に強い浄化槽

2012年

10月10日(水)

宮崎観光ホテル

主催/ 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

担当 全国環境連九州地区協議会

(宮崎県環境整備事業協同組合)

後援/ 環境省・宮崎県・宮崎市・宮崎県市長会・宮崎県町村会

協賛/ 公益財団法人 日本環境整備教育センター

社団法人 全国浄化槽団体連合会

全国浄化槽推進市町村協議会

宮崎県浄化槽普及促進協議会

社団法人 宮崎県浄化槽協会

参加予定者 全国環境連会員等 約600人



## 第10回全国環境連全国大会の開催にあたって

---

---

本日、ここに第10回全国環境連全国大会を『太陽と神話の地』宮崎で開催できますことを心から感謝申し上げます。また、環境省をはじめ、国会議員の先生方、宮崎県・宮崎市など多くの行政や議会そして業界関係者・団体など多数の方々のご臨席をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災からの復旧・復興に追われ、長期化する放射能問題。また九州・中国地方を中心とした各地の集中豪雨による甚大な被害等、近年、自然災害は、どれだけの試練と経験をさせればいいのかと思うばかりか、これまでの環境意識を根底から見直す必要にせまられています。このような中、我々全国環境連では必要機材の提供や義援金などの支援活動を迅速かつ積極的に推進してまいりました。これも会員各位の深いご理解と生活基盤の一翼を担う我々業界の社会的責任感の表れだと思うところであり、我々全国環境連の強い結束を再確認いたしました。

また、行政には、厳しい行財政の状況や我が国が経験したことの無い少子高齢化による人口減少、経済の面においても電力問題や長引く円高・デフレに加え消費税増税など景気回復までの道りは険しく予断を許さない状況の下、機動的で弾力的な対応が求められています。生活排水対策においては、人口変動に即時対応でき、経済効率の高い浄化槽による生活排水処理は、持続可能な社会を形成していくために重要な生活基盤整備であり、復興を進める上でも大変有効な手段であることは御承知のとおりであります。

今回の大会のテーマは『守ろう水資源・つなげよう未来へ・災害に強い浄化槽』であります。私ども業界に課せられた社会的責任は、たび重なる災害を教訓とし市町村の廃棄物処理や浄化槽の維持管理などを通じて生活環境の保全と公衆衛生の向上を図り、未来の子供たちに負担を掛けない持続可能な社会を実現することであり、その責任はますます重要になっております。その要望に応えるため、常に最新の知識・技術の習得を図り今後の循環型社会の実現と一般廃棄物行政へのさらなる協力を図ってまいります。また、この宮崎においては、口蹄疫、鳥インフルエンザなど度重なる災害からの復興途上であり、記念すべき節目の第10回大会を宮崎で開催出来ますことは大変意義深く実りのあるものだと確信しております。本日のこの大会を機に、心新たに全国環境連設立当時の初志を忘れず、基本理念を再確認し、組合員一同更なる努力と、一段の飛躍を期する所存でございます。最後に大会開催にあたり御尽力頂きました皆様に深く感謝申し上げますとともに、御臨席を賜りました多くの皆様方に心からの感謝と更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会長 鳥越澄夫

宮崎県環境整備事業協同組合

理事長 村上牧雄



# 祝 辞



## 伝統を踏まえ循環型社会を

環境整備議員連盟会長

衆議院議員 河村 建夫

「守ろう水資源、つなげよう未来へ、災害に強い浄化槽」のスローガンの下、宮崎に集う全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆様が日常からこの国の良質な水環境の確保、公衆衛生の向上に努められ、民主党政権以来、いささかならず陰りのみられる日本の再起に大きく貢献しておられることに深い敬意を表します。

わが自民党はこの国が再度、世界経済を先導する“機関車”となるためにも政権奪還を目指し、日夜、努力を重ねておりますが、いま掲げる三つの理念こそ皆様方の業界のそれと軌を一にするものです。まず自らが額に汗して頑張る自助自立です。個々人の責任感なくして社会は成り立ちません。それに報いる国づくりは為政者の責務です。二つ目は東日本大震災発生時に世界を驚かせた絆の力。一人ひとりが社会の中で役割を果たしつつ強く連帯し、社会全体で助け合うことの尊さです。三番目は世界に冠たる歴史と伝統をもつこの国の風土をより豊かにして次世代に引き継ぐことです。

わが自民党のこうした根本的な考え方は民主党が政権交代時のマニフェスト(政権公約)に掲げた「コンクリートから人へ」といった、一見すると「生活第一」と思え、楽々と実現できるとみえるモットーと違い、苦労を伴います。しかし、このマニフェストの行動指標がいかに間違っていたかは、先に九州を襲った豪雨で大打撃を被った大分県竹田市で、ダム建設ずみの河川が氾濫を免れ、民主党の事業仕分けで建設中止あるいは延期の河川が軒並み被害を受けた一事でも明らかです。

昨年3月11日の東日本大震災で自然及び社会災害から国民の生命と財産を守ることが政治の第一義的な責務であることを改めて思い知らされましたが、その使命を果たすには充実した防災対策から雇用促進、景気回復へと持続可能な社会経済づくりに邁進することです。福祉をばらまくことでは決してないはずで

そこで欠かせないのが、資源の消費を減らす(リデュース)、何度も繰り返し使う(リユース)、使えなくなったら原材料として再生利用する(リサイクル)循環型社会の構築です。大きな役割を持つのは一般廃棄物環境整備に携わる皆様です。しかし、皆様がこれまで歩んで来られた道程は決して平坦ではありませんでした。地方自治体固有の業務を代行しながら下水道整備の荒波に翻弄され、心ならずも撤退を余儀なくされる方々も少なくなかったと思われ

ます。今私共政治家は37年も前の吉田自民党内閣時代に議員立法で成立させた「下水道整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」の趣旨を踏まえ、英知を生かし、この宮崎に集う皆様方と手を携えて思いも新たに持続可能な循環型社会建設に突き進もうではありませんか。環境技術のさらなる革新によって世界のリーダーを目指します。

# 祝 辞



環境省大臣官房  
廃棄物リサイクル対策部長

梶原 成元

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第10回全国大会が、宮崎県宮崎市におきまして、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

全国環境連の皆様におかれましては、平素から全国各地で、一般廃棄物の処理及び浄化槽の清掃など生活環境の保全に御尽力されるとともに、廃棄物・リサイクル行政の推進に格段の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、この度の大震災においては、バキュームカーやごみ収集運搬車等を無償で提供されるなど、この国難に対し多大なるご支援を賜り、感謝の念に堪えません。被災地の早期の復旧・復興のためには、災害廃棄物の迅速な撤去・処理が大前提であります。環境省では引き続き全力を挙げて取り組んでまいりますので、変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて近年、廃棄物処理・リサイクルを取り巻く状況は、石油などの資源価格の変動や人々のライフスタイルの多様化など、大きく変化してきており、こうした変化に適切に対応しつつ、「持続可能な社会」を実現していくことが求められています。そのためには、企業や国民一人ひとりが、環境意識の向上を図り、自らの取り組みや現状を見つめ直して、日々の生活や取り組みなど足下から行動していくことが重要です。

そして、我が国では、この環境保全に向けた行動として、資源効率やエネルギー効率の高い事業を世界に先駆けて進めることにより、「循環型社会」、「低炭素社会」、「自然共生社会」を同時に実現することが必要と認識しています。

そのような中、浄化槽は、発生源で汚水を処理・排出することから、地域の水環境保全にも貢献するとともに、短期間で比較的安価に設置できるため汚水処理サービスの享受や水質改善効果の発現が早いことが大きな利点であります。環境保全効果はもとより経済性にも優れている浄化槽の役割はますます大きくなっていくものと認識しています。

地域の水循環を確保し、公共用水域の水質保全を図ることで生活環境の保全に寄与するため、浄化槽の整備に向けて一層の推進を図ってまいりますので、関係各位の更なる御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の今後益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



# 祝 辞



宮崎県知事 河野俊嗣

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第10回全国大会が盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国から来県されました皆様を心から歓迎申し上げます。

また、全国環境連の皆様におかれましては、日頃から一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理などを通じて、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に多大な御貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

さて、21世紀は「環境の世紀」と言われておりますが、今日の環境問題は、リサイクルや水環境の保全などの身近な問題から、地球温暖化や資源の枯渇など地球規模のものまで複雑・多様化しております。

本県は「太陽と緑の国」と言われるように、温暖な気候のもと、豊かな森林や水資源、そこに育まれる多様な動植物など素晴らしい自然環境に恵まれており、これらの環境を守り、活用することにより持続可能な社会を実現するために、様々な施策を進めているところです。

廃棄物の分野では、従来の社会経済システムやライフスタイルを見直し、限りある資源を有効活用する循環型社会の形成を目指して、宮崎県循環型社会推進計画を平成23年3月に策定し、県民、事業者、行政が一体となって廃棄物等の発生抑制や再使用・再利用を行う4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進を行っております。

また、本県では良好な水環境を保全するため、宮崎県生活排水対策総合基本計画において、平成26年度末までに県全体の生活排水処理率を78.1%まで引き上げることを目標に、生活排水対策を進めているところです。

特に浄化槽の整備につきましては、短期間で比較的少ない費用で設置できるとともに、地震などの災害にも強いことから、県としても、引き続き、市町村と協力の上、推進してまいりたいと考えております。

今後とも、貴連合会をはじめとする関係の皆様のお協力を賜りながら、本県の美しい環境を守り、次の世代に引き継いでいけるよう、生活環境の保全に全力で取り組んでまいりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

ところで、今年は今古事記編さん1300年、8年後の平成32年は日本書紀編さん1300年という大きな歴史的節目に当たりますことから、古事記や日本書紀に描かれた日本発祥にまつわる日向神話の舞台である本県では、昔から受け継がれてきた多彩な神話や伝説、神楽や祭りなどの歴史的・文化的資源に光を当て、磨き上げ、県内外に積極的にアピールしているところです。

また、本県は美しく豊かな自然をはじめとする観光資源や海の幸・山の幸にも恵まれておりますので、御来県の皆様には、是非この機会に、時間の許します限り、本県の魅力を十分に御堪能いただき、大会の良き思い出としていただければ幸いです。

終わりに、本大会の開催に御尽力を賜りました皆様へ感謝を申し上げますとともに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 祝 辞



宮崎市長 戸敷 正

第10回全国環境連全国大会が、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から宮崎市にお越しいただき、市民を代表いたしまして心から歓迎申し上げます。また、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会会員の皆様におかれましては、日頃から環境行政にご理解とご協力をいただき、環境保全に向けて多大なるご貢献をいただいておりますことに深く敬意を表する次第でございます。

本市におきましては、宮崎市環境基本計画に基づいて、「クリーンエネルギーの利用促進」と「エネルギーの省力化・効率化の推進」を柱として、計画的に施策を推進しているところでございますが、身近な環境問題の取組みとして、廃棄物の処理や自然保護など、環境保全に向けた取組みが急務となっております。その解決に当たりましては、まず、身の回りの環境問題と真剣に向き合い、市民と事業者と行政が協働して取組む姿勢が必要不可欠であり、環境保全に対してそれぞれが意識を高め、自らの生活や活動を見直し、一体となって持続可能な社会を実現することが今後ますます重要になってくるものと考えております。

こうした中、水資源に目を向けてみますと、現在の日本は、地理的な条件に恵まれ比較的雨が多く、深刻な水不足を起こすことは少ない状況でございます。しかしながら、今後このような状況が続いていくとは予測し難い状況でもございます。水は、私たちにとって欠くことのできない大切な資源でございますので、これまで以上に河川浄化に対する意識を高揚し、きれいで豊かな水資源を後世に伝えていくことが私たち世代に課せられた責務であろうと考えております。

そのようなことから、本市では家庭から出る生活排水を適正に処理し、公共用水域の保全を目的として、合併処理浄化槽の設置を積極的に推進してきたところでございます。特に、トイレの排水浄化を目的とした単独処理浄化槽から生活排水全般を処理できる合併処理浄化槽への転換が求められており、今後とも合併処理浄化槽の普及に努めたいと考えております。

一方、災害時における浄化槽について目を向けてみますと、東日本大震災において、地震、津波から損壊を免れた浄化槽が多く、災害に強いように聴き及んでおります。しかしながら、災害に強いとは言え万能ではございませんので、被害に遭った浄化槽の迅速な復旧を図るため、事業者間の連携並びに行政との連携が不可欠であり、災害時における復旧体制を構築しておくことが必要であろうと考えているところでございます。

さて、本年は、古事記が編さんされてから1300年の記念すべき年を迎えております。宮崎には古事記にまつわる神話伝承が数多くございますので、皆様にもぜひ「神話のふるさとみやざき」の壮大な古代ロマンを感じていただければ幸いです。

終わりに、今後とも本市の環境行政へのご協力をお願いしますとともに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のますますのご発展を祈念いたしましてあいさついたします。



# 祝 辞



公益財団法人  
日本環境整備教育センター

理事長 入山文郎

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第10回全国大会が、「守ろう資源 つなげよう未来へ 災害に強い浄化槽」をテーマに、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、優良役員・従業員表彰の栄に浴された方々に心よりお慶び申し上げます。

貴連合会会員の皆様が、一般廃棄物の適正処理、3Rの推進と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献しておられますことに、深く敬意を表する次第です。

また、私ども公益財団法人日本環境整備教育センターの事業推進に対しまして、常日頃より格別なるご協力、ご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、浄化槽法が制定されてから30年を迎える今日、浄化槽は、恒久的な生活排水処理施設として位置付けられ、国際的にも分散型の汚水処理技術が求められている等日本の優れた技術である浄化槽の普及は、水環境の保全を図る上で、国際的にも広く認識されている一方、今大会のテーマにも謳われているように東日本大震災の被災地においては仮設住宅に1,500基以上の中・大型浄化槽が設置され、生活排水の処理に大きく貢献しています。また、環境省の調査によりますと浄化槽の被害について全損と判断される可能性があることとされたのは実に3.8%にとどまり、災害に即応できることが認知され、社会的な評価を高めました。

また、今年3月には「第6回世界水フォーラム」が「水問題解決の時」を主要テーマとしてフランス・マルセイユ市で開催されました。特にアジア水環境パートナーシップサイドイベント「持続可能な未来に向けた水環境パートナーシップ」では、共通する優先課題のひとつに「生活排水対策」がとりあげられ、今後ともアジア地域においては異なる社会、経済状況に応じた生活排水対策が実施されるべきであるとされ、日本パビリオンに「浄化槽の普及」に関するパンフレットが配布されました。

このように、浄化槽は温暖化係数が少なく、水の地産地消、ウォーターマイレージが最少である特徴があり、リンの回収や汚泥の肥料化及び地域に根ざした資源回収に最適であり、膜処理方式や担体流動型、ディスポーザ型、N・P除去型など高機能浄化槽が求められるビジネスチャンスがあることなどから、浄化槽は世界を救うと言っても過言ではないのではないのでしょうか。

このようなことから、貴連合会は国内外に浄化槽の情報発信に努められ、地域の資源リサイクルの救世主として、投資効率の高い地域密着型社会資本整備を目指し、その手法についても民間活力をとり入れた官民連携した事業促進を図ることなどその担われる役割は一層重要なものと思われまます。

当教育センターは、今日まで、浄化槽に係る様々な課題を十分認識し、微力ながら浄化槽関係唯一の教育機関として、浄化槽関係技術者の養成と技術の向上に努めて参りましたが、今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の今後益々のご発展、ご活躍を心からご期待申し上げますとともに、ご参集の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 祝 辞



社団法人  
全国浄化槽団体連合会

会 長 上 山 健 治 郎

貴連合会「第10回全国大会」の開催を、心からお祝い申し上げます。

9年前、貴連合会は、「相互扶助の精神と互いの経営資源の補完」「知性と良心」「自由闊達な建設的議論」「相互の人格と個性の尊重」「民主的運営」等を基本理念として、新たな船出をされました。以来、我が国の健全で恵み豊かな生活環境の確保と、公衆衛生の向上に大きく貢献してこられました。今年も、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会され、新たに「守ろう水資源 つなげよう未来へ 災害に強い浄化槽」をテーマに、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を積極的に推進して循環型社会づくりを実現するための強い決意を表明されております。

全世界で水問題がクローズアップされている21世紀、「水資源の確保」は、日本の国家戦略の一つと言うべきもので、また、「環境保全上も健全な水循環を構築するためには、浄化槽の果たす役割が大きい」ことを考えますと、今大会のテーマもまた誠に時宜を得たものと、深く敬意を表するものであります。

さて、昨年3月の「東日本大震災」は未曾有の被害をもたらし、今なお被災地のご苦労は続いておりますが、直後からの貴連合会皆様の迅速な行動と被災地への支援活動に、改めて心からの敬意を表します。

全浄連も、見舞金・義援金等による支援や、「保証登録浄化槽の大震災被害に対しての保証制度基金特別会計からの特別支出」をはじめ、提言集「東日本大震災復興事業における新しいまちづくりは浄化槽で整備」を作成し、また、本年3月には「大規模災害緊急対応マニュアル」を公表致しました。今後、被災縣市町村へのアピールや、全国の会員団体を通じての普及啓発を推進してまいりたいと存じます。

今や全国の汚水処理人口普及率は85%を超えましたが、未だに、台所やトイレの生活排水の処理を必要としている人たちが、全国では1,700万人以上いらっしゃいます。政府の「事業仕分け」においても、浄化槽に対する期待が強く打ち出されましたが、全浄連では、「今後、取り組むべき浄化槽整備事業に係わる四つの重要課題」として、①「浄化槽整備区域の拡大」

②「単独から合併処理浄化槽への転換を早急に図るための法改正と、経費は公費負担とする制度の創設等、助成制度の抜本的見直し」 ③「浄化槽の維持管理費に対する、下水道並みの助成制度の創設」 ④「浄化槽整備事業の助成率を、下水道同様1/2に拡充」の4点を国・政党はじめ地方自治体等に強く要望し、全国展開しております。

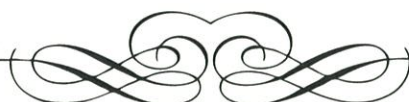
末永い日本の繁栄を築くこと、身近な美しい水環境を守ることは、私達に課せられた永遠の責務です。全浄連は、後世に評価される行動をしていくことを肝に銘じ、その実現に皆様と共に手を携えて努力してまいりたい決意であります。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。



# 第10回 全国環境連全国大会

## 大 会 の 目 的



我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。

そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換（支援）業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいままでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

我々は、今後も絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思いきった意識改革に取り組み、新たな価値観を迫ることが必要である。

また、昨年3月11日に発生した東日本大震災とそれにとまなう原子力発電所事故は、これまでの経済優先の環境意識を根底から覆した。

我々は、環境負荷低減の考え方をより一層進め、自然環境との調和を図り、持続可能な社会を形成していく必要に迫られている。

廃棄物、水処理など環境整備の最前線に携わる者として、地域住民に健全で安心した生活基盤を確保するため、業界一丸となって取り組んでいかなければならない。

本大会は「守ろう水資源 つなげよう未来へ 災害に強い浄化槽」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型の社会づくりを目指し、実現するための我々の強い決意をここに表明するものである。



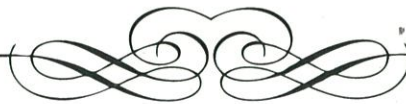


# 大 会 式 典

受付12時30分から

【時間】 13時30分～14時30分

【場所】 東館3階「光耀の間」



- 1、 開 会 の 辞
- 2、 物 故 者 に 対 す る 黙 禱
- 3、 大 会 式 辞
- 4、 優 良 役 員 ・ 従 業 員 表 彰
- 5、 受 賞 者 代 表 謝 辞
- 6、 政 府 に 対 す る 要 望 決 議
- 7、 大 会 ス ロ ー ガ ン 発 表
- 8、 大 会 宣 言
- 9、 来 賓 祝 辞
- 10、 祝 電 披 露
- 11、 閉 会 の 辞



## 第10回全国大会 政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取り組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は「合特法」に基づいて転換業務(補償)獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

### 記

- 1、下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務(補償)の獲得またPFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の趣旨に沿い市町村において適切な対策が講じられるよう指導されたいこと。
- 2、浄化槽の維持管理に係る指定管理者制度の運用については、浄化槽の保守点検及び清掃を適切に実施し、浄化槽の正常な機能が確保されるよう、業者の選定等に関して、地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
- 3、技術革新の可能性のある浄化槽の分野について、最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション(技術革新)創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- 4、汚水処理施設の整備(下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター)については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、人口減少を考慮した経済的、効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 5、ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。
- 6、一般廃棄物処理計画に基づき、一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、新たな業の許可はいたずらに過当競争等を招き、ひいては適正な処理が困難となるおそれが高いため、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。



# 第10回全国大会

## 大会スローガン

- 1、下水道の整備の進捗に伴う転換業務(補償)獲得
- 1、不法・不当な新規許可の絶対反対と委託・許可制度の適正な運用
- 1、生活排水対策に優れ災害に強い浄化槽の適正な維持管理の確立・徹底
- 1、イノベーション(技術革新)による事業の安定的発展と循環型社会づくりを実現するため3R活動の一層の推進
- 1、情報収集システムの運用と情報提供の充実強化
- 1、組織の充実強化と次世代を担う人材の育成
- 1、労働災害ゼロの徹底と福利厚生の実



# 大 会 宣 言

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の取り巻く厳しい環境は、年々その度合いを強めている。

そのため、「合特法」の趣旨を踏まえた転換(支援)業務(補償)の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

今後は、絶え間ないイノベーション(技術革新)で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任(CSR)の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、昨年3月11日に発生した東日本大震災とそれにともなう原子力発電所事故は、これまでの経済優先の環境意識を根底から覆した。我々は、環境負荷低減の考え方をより深め、自然環境との調和を図り、持続可能な社会を形成していく必要に迫られている。

廃棄物処理、水処理など環境整備の最前線に携わる者として、地域住民に健全で安心した生活基盤を確保するため、業界一丸となって取り組んでいかなければならない。

本大会は「守ろう水資源 つなげよう未来へ 災害に強い浄化槽」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型社会づくりを目指すものである。

さらに、私たちは組織拡大を図りながら強固な団結と協調のもと全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上宣言する。

平成24年10月10日

第 10 回  
全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会  
全 国 大 会



講

演

【時間】 15時00分～17時00分      【場所】 東館2階「紅日向」

講 演 I      15時00分～15時55分

演 題

『最近の浄化槽行政の現状について』

講師 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部  
廃棄物対策課浄化槽推進室 浄化槽企画官

松 田 和 久 氏

講 演 II      16時05分～17時00分

演 題

『持続可能型社会における水問題』

グローバルウオーター・ジャパン代表

吉 村 和 就 氏



# 大 会 懇 親 会

【時間】 17時20分～19時20分

【場所】 東館3階「光耀の間」



- 1、 開 会 の 辞
- 2、 主 催 者 挨 拶
- 3、 来 賓 祝 辞
- 4、 来 賓 紹 介
- 5、 乾 杯
- 6、 次 回 開 催 担 当 県 挨 拶
- 7、 閉 会 の 辞